

中井だよい

中井やまゆり園

退職にあたり

生活第三課長 有泉 淳

平成2年の春、神奈川県福祉職として採用されて、中井やまゆり園での勤務が始まりました。当時は平屋で、“コの字型の1寮”と“一直線に長い2寮と3寮”の3棟、それぞれ50人の利用者さんが生活していました。日課の節目に音楽が流れて、利用者の皆さんは流れる音楽によって「もうすぐご飯だ」とか「寝る時間、電気が消える」など、把握していたかと思います。食事は介助の必要な一部利用者は“1寮内の食堂”で食べていましたが、他のほとんどの皆さんは“大食堂”でさながら社員食堂の雰囲気でした。

初めの中井やまゆり園は7年間で、時期を置いて再整備が進み泉寮がオープンとなった平成14年に、2回目の中井生活がスタートしました。泉寮では、生活の支援よりも日中活動を担当していました。そのころは“言葉をかける”よりも、“絵や写真を使って日課(作業)の流れを伝える”ことが求められており、少し戸惑いもありました。その後は活動1班の担当になり、みなさんと受注作業である“パイロットシャープペンの組立て”を行い、その日のうちに納品していました。2回目の中井やまゆり園も7年ほどで異動になり、13年ほど児童関係の仕事をして現在に至ります。

3回目の中井やまゆり園は、令和4年春に“らっかせいの開設準備”のようなところからスタートしました。秦野駅前活動拠点などと呼ばれていて、まだ“らっかせい”という名称はありませんでした。それでも、利用者の皆さんと一緒に外に出て、一緒に動き、一緒に昼ご飯を食べる時間は、“こころの中が少しくすぐったい”嬉しさも感じました。今は次の担当職員がより発展させて、多くの利用者さんに外を体験してもらっています。自分にはなかなかチャレンジできなかったことなので、重ねて嬉しく思います。

生活第三課に移ってからは、昔からいる利用者さんに合わせて新しい利用者さんがいる中で、職員が一つになって生活を支援しています。全体に年齢が高く、日中の活動(作業)だけではない豊かな生活を目指したいと考えている毎日です。

ざっと振り返っただけでも、35年のうち17年くらいは中井やまゆり園で利用者の皆さんと生活してきました。これから独立行政法人に組込まれるなど、大きな変化があると思いますが、利用者の皆さんは引続き“安心、安全”でかつ“より自分らしく”中井やまゆり園で生活が続けられるように祈っております。長いようであっという間だった17年間、本当にお世話になりました。そして、ありがとうございました。